

## 名古屋市港区で発見されたアフリカマイマイ

川瀬 基弘

愛知みずほ大学人間科学部 〒467-0867 名古屋市瑞穂区春敲町2-13

### *Achatina fulica* (Ferussac, 1821) discovered in Minato-ku, Nagoya, Aichi Prefecture, Japan

Motohiro KAWASE

Department of Human Science, Aichi Mizuho College, 2-13 Shunko-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-0867, Japan.

Correspondence:

Motohiro KAWASE E-mail: kawase@mizuho-c.ac.jp

#### はじめに

2016年9月下旬に、名古屋市港区において、外来種のアフリカマイマイ *Achatina fulica* (Ferussac, 1821) の生体1個体が発見された (図1)。

アフリカマイマイは、原産地が東アフリカのモザンビーク付近のサバンナ地域とされる外来種で、日本への導入は、1932年にシンガポールから台湾に持ち込まれた12匹が起源となり、1936年に特殊病害虫に指定されるまで、全国各地で食用に養殖が行われた (富山, 2002)。本種は雑食性で、落葉、生葉、動物の死骸や菌類まで幅広く捕食するため、農作物の被害が報告されることが多い。また、広東住血吸虫の中間宿主であり、人に感染した場合は脳障害を引き起こす。さらには、在来

の陸貝との競合など、人間や生態系に与える影響が大きく、重点対策外来種 (生態系被害防止外来種リスト)、日本の侵略的外来種ワースト100、世界の侵略的外来種ワースト100に指定されている (「アフリカマイマイ」国立研究開発法人国立環境研究所、侵入生物データベース、<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70250.html>, 2016年10月16日確認)。

今回の発見場所では定着・繁殖していないことが明らかとなったが、発見時の状況およびその後の調査結果を報告する。

この報告をまとめるにあたりアフリカマイマイ発見の情報提供をしていただいた久田祐美氏に御礼申し上げます。

#### 調査結果

アフリカマイマイと思われる個体は、2016年9月下旬の雨上がりに、名古屋市港区空見町11番地で発見された。発見場所は、事務所建物横の外壁の下方のコンクリート上であった。軟体部を殻から出している状態で発見された。その後、アフリカマイマイと思われる陸貝が見つかったとの情報提供を受けて、2016年10月12日に現地調査を行った。提供のあった個体の写真からアフリカマイマイに同定し、実物の確認も行った。殻高は52mmであった。発見場所および周辺地域には大型陸産貝類が生活できるような腐葉土、植生や落葉落枝の集積は確認できなかった。農林水産省名古屋植物防疫所国内検疫担当者に

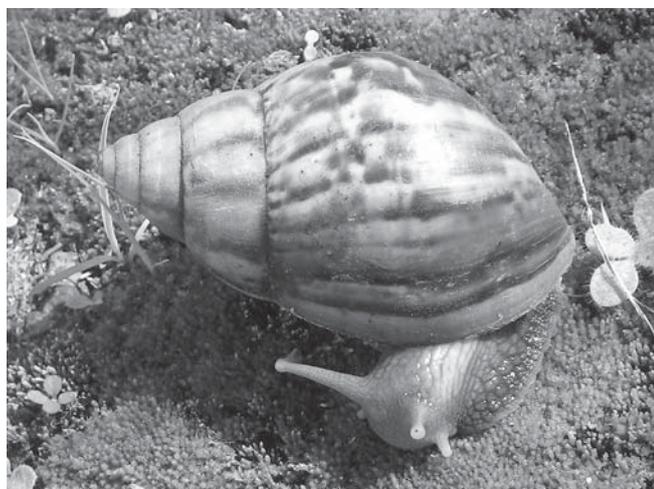


図1. アフリカマイマイ (発見個体を付近の空き地に移動して撮影)

よる周辺の調査も行われたが、情報提供を受けた1個体以外は発見されなかった。やや離れた場所には外国船の積荷の積み卸し場所があり、東南アジア、中国、アメリカからの船舶が頻繁に入港しているが、食品関係の積荷は一切扱っていないとのことであった。これらの積荷に紛れ込んだ個体がこぼれ落ち、個体が自力で移動した後に発見された可能性がある。また、発見場所の真横には大型トラックの積荷の積み卸し場所があり、積み卸しの際にこれらの積荷から偶然紛れた個体がこぼれ落ちてその場所を這っていた可能性もある。トラックの積荷も食品関係は一切扱っていないが、全国各地からの運搬があるため、国内の定着地域から移動してきたトラックに運搬された可能性も否定できない。

今回の発見及びその後の調査により、最初に発見された1個体以外に確認されなかったこと、発見場所周辺に大型陸貝の生息できる環境がなかったこと、仮に複数の個体が進入していたとしても熱帯・亜熱帯性の本種が名古屋市を含む本州の冬季の低温に適応出来ないと考えられることなどから、定着・繁殖はしていないと判断した。なお、発見された1個体については名古屋植物防疫所の検疫官により適切に処分された。

#### 引用文献

- 富山清升. 2002. アフリカマイマイ. 日本生態学会 (編). 外来種ハンドブック, pp. 165. 地人書館, 東京.